

---

# ストレート!!!

成太

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ストレート!!!!

### 【Nコード】

N2975E

### 【作者名】

成太

### 【あらすじ】

天才アタッカー清水鷹虎が全国制覇に立ち向かう青春バレーストーリー

## ブローグ

「打て！鷹虎！」

パシ セッターがボールを上げる

「任せろ！」

バシッ！ボールが床を叩き体育館の中に反響する

ピィィ

「ゲームセット！優勝 町田バレークラブ！」

ウオゥ！ヤッター！

「やったな！鷹虎！」

「うういてえ……」

「おい鷹虎！大丈夫か？」

ジリリリリリ

「はっ夢か……」

バサッ

「鷹虎！起きなさい！」

「起きてるよ！」

ネクタイを結びながら棚の賞状を見た

全国実業団バレー大会中学の部優勝町田バレークラブ

MVP 清水鷹虎殿

「過去の栄光かあ…」

鷹虎は制服を着をわり下に降りた

「おはよう！あれ兄貴は？」

「幸村なら朝練だつて！入学式なのにがんばるわねえ！」

「幸兄はもうスタメンらしいよ！鷹兄は部活なにやるの！？」

「俺か？まだ決めてないなあ！ごちそうさま様！じゃ行って来るよ  
！」

「行ってらっしゃい！」

「鷹兄行ってらっしゃい！」

「こら！小春！あなたも行きなさい！初日から遅刻は許しませんよ  
！」

県立市原東高校

僕が三年間通う高校だ

「え〜と俺は…」

下駄箱のドアに張り出されたクラス割りを指でなぞる

「あつた一年A組か」

下駄箱に靴をいれ教室に向かった！校内は部活の勧誘が激しい鷹虎は身長180センチあるため運動部に誘われていた

「君身長高いね！ぜひバスケット部に！」

「いやあいやあぜひサッカー部に！」

「なに言ってる！バレー部だよね？」

（バレー部…）

「俺運動音痴だから…」

鷹虎は立ち去った

## セット1 1

「ええ〜私が担任の斎藤賢太です！一年間よろしく！」

パチパチ

「ええ〜じゃみんなに自己紹介してもらおう！お前から順番に！」

みんなが自己紹介して鷹虎の番が来た

「ええ〜つと清水鷹虎です！東京から親の仕事の都合で来ました！よろしくお願いします！」

「鷹虎かあ〜カッコイイ名前だな！お前結構身長高いなあ…どうだバスケ部に…」

「俺運動音痴だから！」

鷹虎は座った

「そうか…次」

「お前面白いな！」

横の男子が話しかけて来た

「えっ！？何が？」

「自己紹介で自分は運動音痴です！つて普通言わないだろ！」

「そう言つと勧誘から逃れるの楽だから！」

「あっそうか！まあお前くらいの身長なら勧誘がひどそうだなあ！  
俺の名前は」

「知ってるよ！斎藤孝之でしょ！？」

「あれっ！？知ってた？俺って有名人！？」

「いや自己紹介したから！」

「あそつかあ！」

「君面白いね！」

「じゃ今日はここまでだ！明日から通常授業だからなあ！」

ガヤガヤカ

「おい清水！一緒に帰ろうぜ！」

「いいよー！」

二人は廊下に出た

ドンッ

鷹虎の肩と二人組の女子の片方の肩が当たった

「あっごめん！」

「ごめんなさい！」

二人は顔を一瞬見合わせすぐ鷹虎達は歩き出した

「あれえ…彼どこかで…」

女の子はその場に立ち止まって考え事をした

「ちょっとどうしたの？」

一緒にいた女の子がかけてきた

「あっごめん…行こう！」

(そつだ彼…)

「お前部活やるのか？」

「うんやるなら文化部かなあ…」

「なんで文化部？お前の身長なら運動部だつて…」

「俺より斎藤は入るのか？」

「ああ俺はバレエ部にな！昔からやっててなあ！そつだお前バレエやって見ないか？」

「えっバレエを？なんで？」

「いやお前の身長なら少し練習すれば使い物になるよ！」



「バレエの話は辞めてよ！」

鷹虎はどなってしまった

「えっどうしたんだよ？まさか…お前昔バレエやってたのか？」

斎藤は鷹虎の体を見渡した

「やっぱり筋肉の付きかたが…」

「行こう！」

鷹虎は歩きだした！

## セット1 2

「だだいまあ！」

「あらあ舞子お帰り！早いはね？」

「お兄ちゃんが遅くなるから帰って良いって！」

「あらあそう…健吾も優しい所あるじゃない！お風呂沸いてるわよ！」

「ちよつと調べ物あるから…」

ダッダッダッダ

舞子は階段を駆け上がり部屋に入った

「あの子確か…」

舞子は棚からファイルを取り出しめくり始めた

「やっぱり…清水鷹虎…町田バレークラブのエースで黄金のストリートと言われた人！全国実業の決勝でお兄ちゃんと戦った人だあ！やっぱり彼だったんだ…」

次の日

「ちよつと清水君！」

鷹虎は振り返った

「あっ昨日の…」

鷹虎は教室に入りながら言った

「君バレー部入らない？」

「えっなんで？」

鷹虎は座りながら言った

「うんどうした？鷹虎？」

斎藤も体を起こし言った

「君全国実業団で優勝したわよね？」

「えっ？そうなのか？」

「それが何だよ！君に関係ないだろ！」

「黄金のストレートと呼ばれてたはよね？」

「黄金のストレート…お前があの…実業団で活躍して将来の全日本候補！って言われた…」

「そうよ！斎藤君！でも君は全国実業団で右足の靭帯をきってからバレーを辞めた…」

「そうなのか鷹虎？」

鷹虎は重い口を開けた

「確かにそうだよ！俺はかつて黄金のストレートって呼ばれてた！でも靱帯を切って医者にもバレーは出来ない体って言われてる！」

「大丈夫よ！靱帯は切った時にはものすごく大変だけど完全にくっついていたらバレーはできるのよ！」

「ふざけるな！君は医者か？俺の気持ち分かるかよ！」

ダッ

鷹虎は走り去った

「鷹虎君…」

「あのさあ君キャプテンの妹だよね？」

「うん！君は斎藤君！中学の時千葉県ベスト8に入った！」

「そうそう！キャプテンに憧れて来たんだよ！よろしくね！」

その頃

ガチャ

「鷹虎？学校は？」

「早退した…」

階段を上り自分の部屋に入りベッドに寝転がった

「くそっ…俺だってバレーやりたいよ」

## セット1 3

次の日

「おつ鷹虎！」

「…」

「大丈夫だよ！俺は無理にバレー部に誘わないからよ！」

「ごめん」

「気にすんなよ！お前の気持ちわかるからよ！」

放課後

一人教室から校庭を眺めている鷹虎 校庭では運動部が部活をしている

「俺も部活やりたいよ…」

自分の席に座る

体育館

「よし次はクイックの練習だ金子トス上げろ！」

「ふっんこれがベスト8の練習かぁ！」

体育館の入口に二人の男が立っている

「誰だ君達！部外者出てけ！」

「おい春一！こいつ俺達の事知らないらしいぞ！」

「こら一馬！偵察に来たんだからもう少し……！」

「知っていますよ！田辺春一と春山一馬ですね？」

「これは副キャプテンさん」

一馬が応対した

「今日はなんの用ですか！？」

「いえ特に用はないんですがあ……！」

「そうですか！まあよかつたら練習見ていってください！」

副キャプテンは歩いてコートに戻った

「雄介！」

「あああいつらはベスト4の私立市原工業のスーパーエースの田辺春一と天才セッターの春山一馬だ！練習を続ける！」

市原バレー部は練習を続けた

30分後

「ハツハハこいつがベスト8かよ笑わせるぜ！」

春一が騒ぎ出した

「こら春一！失礼ですよ！」

「でもよ一馬！こいつら高杉がいねえどダメチームだな！」

「こら春一！みなさんが見てるよ！」

「春一君余りにも失礼じゃないか！」

雄介が言った

「本当の事だろ！まったく金子がもったいなあ！」

てっめー

横の部員がいきり立っている

「なんだよ？やるか？」

「こら菅！やめろ！実力はコートで出せば良い！だよね一馬君！」

雄介は振り返りコートに戻った

「だどよ一馬！」

二人は立ち上がりコートに向かった！



「君達はブロックしてくれ！五本打つ！」

「へえっそんなに少なくて良いのかよ？」

「こちらからは金子と高野をだす！開始」

パシっ 金子がトスを上げる

バシッ

ボールは春一の手にあたりコートインした

「なっ馬鹿な！健吾の次にパワーシューターの高野を一枚で……」

何本打つても結果は同じだった

「ねえ斎藤君？」

「何だよマネ？」

「鷹虎君教室にいた？」

「確かにいたぞ！」

舞子は走りだした

「帰るか……」

鷹虎はカバンを取り教室から出た

「ハアハア…来て！」

舞子は鷹虎の手を引つ張り走り出した

「ちよつとどこ行くんだよ？」

ついた場所は体育館

「はつたいした事をないなあ！」

体育館には数人倒れていた！

「ちよつと待ちなさいよ！」

「！」

二人は舞子の声に振り向いた

「あんた達馬鹿にして！市高のリーサルウェポンよ！」

「ちよつと待てよ俺バレー出来ないんだぞ！」

春一と一馬は鷹虎をみた

「彼は…」

一馬が言った

「お前知ってるのか！？」

「ええ…清水鷹虎…」

「！？あいつが…」

「離せよ」

ぐいっと鷹虎は腕を引っ張って振り返り体育館から出て行くようにした

## セット1 4

「おい清水！お前怪我してバレー辞めたんだってな！」

ビクン

鷹虎は立ち止まった

「まったくたいしたヘタレだよ！黄金のストレートとか言われて持て囃されたからな！」

ブルブル

鷹虎が小刻みに奮え始めた

「お前みたいなヘタレがバレー辞めてよかったぜ！ヘタレが同じコートに立つ事を想像しただけでむしずが走る！」

鷹虎は振り返った

「コノヤロ〜！言いたい事良いやがって！」

鷹虎はネクタイを投げ捨てコートにたった

「やるか!？」

「当たり前だ！」

「じゃ何本にする？」

「二本だ！」

「ハツハハこいつは傑作だ！ブランクがあるのに二本？わかった！もし負けたら俺達の前に二度と現れるな！」

「わかった！」

「鷹虎君！練習着来て！」

舞子が持ってきた

「いらないよ！これで十分だ！」

「へっきやがれ！」

ぴい

パシ 金子がトスをあげた

「コノヤロ〜」

鷹虎は助走を付け飛んだ

「うっ高い」

バシッ

ブロックされコートインした

「たいした事ないなあ！」

「クツもう一回ある！」

ピーー

「大丈夫跳べる！大丈夫だ！」

パシ 金子がトスを上げた

鷹虎は助走をつけているその後ろから舞子の声が聞こえた

「大丈夫よ鷹虎君！踏み込んで飛ぶの！君なら跳べる！」

へっ当たり前だ！

足を降り天高く飛んだ

「なっ？高い…」

春一は我慢しきれずに落ち始めた

「そこだあー」

バシッ！

まるで全国実業団決勝の再現のようにボールは床を叩きもの凄いな音が反響した

「うっ動けない…」

一馬はつぶやいた

タン

今鷹虎が着地した

「ハアハア」

鷹虎は体育館を後にした

セット1 5

「ただいま…」

「鷹虎ちよつと…早く!」

母さんが慌ててリビングから飛び出して来た

「なんだよ!？」

鷹虎はリビングに入った

「これを見て!」

新聞の社会面を見せてきた

「これは…」

無免許医師逮捕!

「無免許で治療をしたとして逮捕された東京都町田市の高杉医院の高杉誠容疑者かれは地元でも有名な…」

記事にはこう書いてあった

「今から病院行くよ!」

市原総合病院



「鷹虎君の足は…なんともありません！」

「本当ですか？」

母さんが聞いた

「はい！靱帯どころか筋肉にすら傷一つありません！」

「じゃあバレーは？」

「バレーどころか相撲だって出来ますよ！」

「ただいま！」

「あつ鷹兄おかえり！」

「ほら小春良いもんやるよ！」

鷹虎は手に持っていた紙袋を小春に渡した

「ええ！？なにこれ…わぁっありがとう！欲しかった洋服だ！」

「おかえり鷹虎！」

「幸兄…俺…」

「分かってる…新聞も見たし母さんからも聞いた！よかったなあ！」

「ありがとう！」

「どうだ？俺の高校に転入すれば良いんじゃないか？」

「いやぁ俺は市原東でやる！」

「そっかじゃ今回は敵どうしだな！まぁ飯でも食えよ！」

次の日

「おはよう鷹虎！」

「おう斎藤！」

「昨日は大丈夫だったか？足は？」

「ああ大丈夫だ！今日じゅうにはつきりさせる！」

「？」

放課後

「よいしょ！フウ〜」

ガラ 体育館のドアが開く

「あれ？早いわね！」

舞子が振り向いた

ドアに手をついて鷹虎が立っていた

「1年A組清水鷹虎！男子バレー部に入部する！」

「本当なの？鷹虎君？」

「当たり前だ！ボール貸してみろ」

鷹虎はボールを持ちエンドラインに立った

「これが証拠だ！」

ボールを天高く投げスパイクサーブをした

それは舞子も鷹虎自信でさえ驚くようなジャンプだった

バシン！

ボールが床を叩き物凄い音が反響した

「みただろ？これが俺だ！」

## セット2-1

「ういゝす」

斎藤が入って来た

「えっ鷹虎？どうした？」

「今日からバレー部だよろしくな！」

「まぢいかあ！だから朝決着つける！みたいな事言ってたんだ！」

「これで市原東も安泰ね」

舞子が言った

「ういゝす」

部員が続々と来た

「あっお兄ちゃん！こっち」

舞子がキャプテンを呼んだ

「おい舞子…頼むから学校でお兄ちゃんは辞めて！」

「良いじゃん！お兄ちゃん何だから あっ彼が清水鷹虎君！まっ説  
明はいらないか！」

「久しぶりだね鷹虎君！確か全国実業以来だね！？」

「お久しぶりっす！また会えて光栄です！」

「ハハッあの時はコテンパンにされたけどね！まあまだ君はプランクがあるから無理するなよ！」

「おっす！でも大丈夫っす！」

「そっかあ！あっそうだみんな集まってくれ！」

部員が集まった

「ええ！まず新入部員を紹介する！清水鷹虎だ！さっ鷹虎君前に出て挨拶挨拶！」

鷹虎は前に出た

「清水鷹虎です！よろしく！」

「よろしく鷹虎君！僕は副キャプテンの三島雄介！」

「よろしくお願いします！副キャプテン！」

「よっ鷹虎！」

「よろしくな雄大！」

「あっそうだ！今日練習試合組んであるからな！」

「そんな聞いてないよキャプテン！」

「二校来るからな！木更津商業と市川学園だ！」

「えっ市川学園ですか！？」

斎藤が聞いた

「そんな強いのかよ？」

鷹虎が斎藤に聞いた

「ああ去年の春高バレーに希望枠で出場したんだけどベスト8まで残ったんだ！しかも今年は良い一年が入ったらしいからな！」

「ふ〜ん…まあ俺がいれば大丈夫だけどねえ」

「すごい自信だなお前！」

「よし今から準備だ！」

ガラガラ

「よっ高杉！」

「来てくれたか米原！」

「おいお前等礼しろ！」

よろしくお願いします！

木更津商業が礼をした

「あれが木更津商業かあ？」

鷹虎はストレッチをしながら舞子に聞いた

「うん！要注意はキャプテンの米原厚司と二年でエースの国見光よ！」

「ふうん！まあ大丈夫でしょ」

「まあ凄い余裕！」

ガラガラ

「やっと着いた…明日が土曜じゃなきゃ受けてないからな高杉！」

市川学園が体育館に入ってきた

「悪いね難波！」

「まあお前の頼みだ！しかも良い一年が入ったらしいじゃん？」

「うんつまあな！思わぬ拾い物もあつたけどな！」

「拾い物？」

難波が当たりを見回した

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2975e/>

---

ストレート!!!

2010年12月13日18時10分発行